

シニアネットワーク連絡会セッション

Web 方式による対話会の課題と今後の展望
Challenges and Prospects of an Online Dialogue Meeting

(3) 九州工業大学における Web 対話会について

(3) Web Dialogue Meeting at Kyushu Institute of Technology

*渡邊 政幸¹¹九州工業大学

1. 九州工業大学における対話会

本学では、大学院博士前期課程で開講している講義の一環として対話会を開催している。アクティブラーニング推進が求められるなかで、本対話会は特に専門家の方々と議論できる場とあって、工学系の学生に対しては教育面でも大きな効果が期待でき、すでに内定している M2 生や就職活動が始まっている M1 生の意識改革にもつながっている。電気系と機械系で交互に開催しており、9 回目となる 2020 年度は電気系で 11 月 19 日（木）午後にオンラインで実施した。参加者はシニア 14 名、学生 26 名、教員 1 名であった。遠隔講義用の Web 会議ツールとして Zoom を採用していることもあり、これを利用して対話会を実施した。

2. 対話会の準備と実施

2-1. 対話会まで

例年は基調講演後に対話会実施の流れであるが、できるだけ対話会に時間を確保したいことから、世話役の金氏顯氏によるこれまでの原子力発電の歩みと現状に関する基調講演については約 1 か月前に録画し、事前学習に活用してもらうこととした。本学では以前より Moodle（学習管理システム）が整備されており、受講生は資料や動画等を Moodle 経由でいつでもアクセスできる環境にある。各種通知や事後アンケート回収等も容易であった。受講者を 6 グループに分け、対話テーマを各グループで決定し、事前にシニアの方々とテーマに関する QA を e-mail でやり取りする形で準備を進めた。また、参加シニアの方々には事前に Zoom での画面共有やブレイクアウトルームの利用などのリハーサルを実施して当日に備えた。

2-2. 対話会当日

対話には 2 時間 30 分を確保した。オンラインでの対話は難しい印象を持っていたが、十分とはいかないまでも学生は納得のいく議論ができたようであった。事前学習の効果もあり、石炭火力の縮小、原子力発電の将来、文献調査受入れ、新型原子炉など最新の動向にも関心が高く、実りある対話が形成された。座学のみでは得られない知識や情報を補完でき、電気を専攻する学生として何らかの形でエネルギーに関わる職に就く学生にとっては非常に有意義であった。グループ別発表の資料作成が 20 分と短い上にオンラインで要領を得ない状況での作成であったため、十分にまとまりきらなかった印象であった。これまで例年はグループワークに適した教室で実施してきており、対面での臨場感や白熱を味わえなかったのはやはり心残りであり、対話会と並んで重要な懇親会も当然ながら実施できなかった。

3. むすび

世話役の金氏氏の多大なご尽力により周到的な事前準備を進めたこともあり、当日はスムーズに進行できた。事後アンケートの結果でも対話会には満足しており、機会があればさらに知識を増やしてから参加したいとの意見が多数であった。Web 会議で常々感じることは発言のタイミングの難しさで、空気を読みにくく発言の積極性にも多少なりとも影響しているように思われる。このような対話の経験が少ない学生をどのように伸ばし積極的に意見を引き出すかが課題であるが、エネルギー問題を改めて考え自身の意見を発するきっかけとして絶好の機会であり、今後も関係各位と協力して継続して実施していきたい。

*Masayuki Watanabe¹¹Kyushu Institute of Technology